故郷 山木屋への思いを太鼓が繋いでくれた

遠藤（えんどう） 元気（げんき）

和太鼓奏者（G-project）

昭和 63 年（1988）、川俣町生まれ。
保育や介護について学んだ後、障がい者授産施設に勤務。
震災後は、10 歳から続けていた和太鼓の活動を継続するため、2013 年 和太鼓奏者に転身。
オリジナル曲の作曲や指導、国内外でのパフォーマンスやセッションを行っている。
地元和太鼓団体「山木屋太鼓」の会長も務め、地域と人を繋げる活動にも力を注ぐ。

原発事故が起きて放射能汚染が川俣町（かわまたまち）にまで及んだ時、
「太鼓を続けられないかもしれない」という不安が私を突き動かし、
これからは山木屋太鼓を絶やさず次代に繋（つな）げていこうと決意しました。
こんなふうに和太鼓の道で生きていくなんて、震災前は考えられませんでした。
「山木屋太鼓」は地域の若年の育成を目的にしていますが、震災後避難生活が
長期化し、生活環境や気持ちの変化とともにメンバーが年々減少…。
そんな中、太鼓の楽しさを川俣町の子どもたちに体験してもらうなど、
幼稚園から大人まで地域の垣根を越えた活動を続け、メンバーも安定してきました。
これまで素晴らしい出会いにも恵まれ、伝統文化や音楽には自分の知らない
魅力的な世界が無限にあることも知りました。
この 10 年、故郷への気持ちを絶やさないことをずっと考えています。
大切なものを守り、戻る住民が少ない地域で活動を広げていくことは簡単なこと
ではありません。地域の人たちと話をするたびに「山木屋のこれからを、
もっともっとしっかり考えられる大人になりたい」と思いは年々強くなります。
和太鼓奏者としてさらにレベルを上げ、未来に繋げていける活動を目指していきます。

2018 年 5 月に南相馬市で開催した「ふくしま Flow2」にて。
「当たり前に感謝し、自分に挑戦し続けていきます」と遠藤さん